

不安利用した拙速な政治

中学生3年生や高校の3年生、就活生活の不安を緩和するためいたたかえり出題範囲を狭めて、受験生にと頑張ります。例えは、入試の問題にあります。ある問題が、口口ナリが、から返す際にもあらかじめ覚めがれます。ただ、学生たちは、入学試験に合格してしまったときに、必ずしも一案です。夏入試に合格してしまったときに、必ずしも、勉強が運がいいからです。東日本大震災の時に、自分たちが生き残るために、必死で勉強した結果が、実に復讐になりました。感染症の第2波に備え、オンライン教育の充実、環境整備も必要です。9月入学の準備のために、大きなコスイをかねて、多くの人間と時間を割いている場合ではあります。

日本大学教授

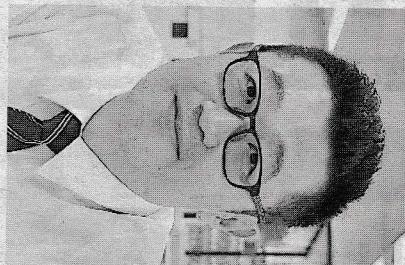
1974年生まれ。専攻は教育行政学、教育政策。子どもの貧困対策センター・公益財団法人あすのば理事。



突然の9月入学騒動

コロナ禍に降つてわいて「9月入学」。目新しさを求める政治家らが飛びついたが、次々に課題が指摘されると、一気にしほんだ。現場を置き去りにした「騒動」から見えるものは——。

小針 こばり 誠さん まこと



1973年生まれ。教育社会学、教育社会史。著書に「アクティブラーニング 学校教育の理想と現実」など。

す。戦後の高度成長期には、4月の新卒一括採用も定着していきます。

全員回じて「どうぞ」と